

急速に変わる教育トレンド

iPad配備から早四年

ズームしてみよう!

令和二年三月の学校一斉休校から約四年が過ぎました。それから数か月後、一人一台端末（豊中市ではiPad）が配備され、教育現場に大きな変化を呼びます。みんなと一緒に慣れないデジタル端末をなんとか授業でつかってみよう、むりやりにでもとりあえず取り入れてみようかと四苦八苦した日々は、まだ記憶に新しいです。通常業務にプラスして、端末を扱う技

令和二年三月の学校一斉休校から約四年が過ぎました。それから数か月後、一人一台端末（豊中市ではiPad）が配備され、教育現場に大きな変化を呼びます。みんなと一緒に慣れないデジタル端末をなんとか授業でつかってみよう、むりやりにでもとりあえず取り入れてみようかと四苦八苦した日々は、まだ記憶に新しいです。通常業務にプラスして、端末を扱う技

れていきます。

本誌は寺内小学校内で行

われている授業を参観し、

先生方が培ってきた教育の

「今」を切り取り、紹介

することを目的としていま

す。今後ともよろしくお願

いします。

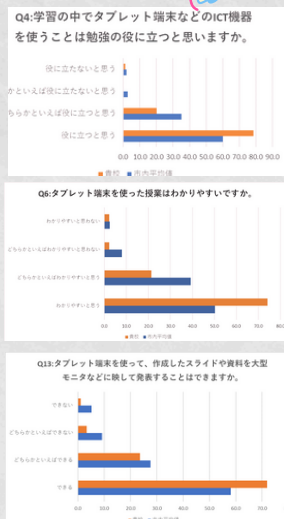


配備されたiPad（第8世代）

慣れた児童たち抱える課題

豊中市教育センターが二〇二三年に実施した「タブレット端末活用アンケート」より、本校にはデジタル端末を使用した授業を肯定的にとらえている児童が多いことが明らかになりました。特に五年生（現六年生）では「タブレット端末を使った授業はわかりやすいですか」との問いに、市内平均50.3%を大きく上回る、74.2%もの児童が肯定的に答えていました。これは昨年度の五年生が国語科「注文の多い料理店」をすべしSkyMenuCloudを用いて行うという挑戦を行った結果であると考えられます。

子どもたちの端末を操作する技能が成長している一方で、時代に即した情報モラルの醸成が急がれています。そういった面でも、学校と家庭の連携が必要とされています。



タブレット端末活用アンケート(2023)